

# 社会科テスト

【高学年1・5】

## - 他教科等との関連を図った指導 -

(1) 主題名 真理を大切に [1・5] 関連項目 [1・2]

(2) ねらい 真理を大切にし、くじけずに求めていこうとする心情を養う。

(3) 資料名 「社会科テスト」

(4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 自分の経験を思い出す。	学習の中で、なぜだろう？不思議だなあ？と思ったらどうしますか。	出にくい時は予め用意しておいた話をし、資料への関心を高める。
展開	2 資料「社会科テスト」を聞き話し合う。	<p>一軒目、間違い電話をしてしまったときの一郎はどんな気持ちでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どきどきするなあ。</li> <li>・もうやめにしようか。</li> <li>・もう一軒だけかけてみよう。</li> </ul> <p>松井先生に、地図の問題について説明している一郎はどんな気持ちでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・うまく伝わるかな。</li> <li>・どうしても本当のことを知りたい。</li> <li>・もう少しで分かってもらえる。</li> </ul>	<p>役割演技を取り入れ、そのときの気持ちを聞き、知らない相手に電話することの苦労を共感させる。</p> <p>役割演技を取り入れ、そのときの気持ちを聞いたり、切り返しの発問をすることで、どうしても本当のことを知りたい気持ちの強さに気付かせたい。</p>
開拓	3 松井先生の話を聞いたときの一郎の気持ちを考える。	<p>電話を置いた後、一郎の胸の高鳴りがより大きくなつたのはどうしてでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当の答えがわかってうれしかつたから。</li> <li>・苦労した甲斐があった。</li> <li>・あらためてどきどきした。</li> </ul>	<p>一郎の達成感に共感させるためにワークシートの吹き出しへ記入させる。</p>
	4 自分たちの生活を振り返って話し合う。	<p>学習の中でわからなかつたことで頑張って調べたりしてわかるようになったことはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な学習の時間の中で、わからないことを何度も調べ返した。</li> <li>・調べる方がわからずいろんな人に聞いてやっとわかった。</li> </ul>	教科の学習や総合的な学習の時間のことを振り返り、ねらいとする価値に迫るようにしたい。
終末	5 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べてわかるようになるって大切なんだな。</li> </ul>	疑問をあいまいにせず、とことん調べた例などを挙げる。

## 社会科テスト

社会の時間、一郎は、返ってきたテストを見てピックリした。絶対自信があつた地図の問題で×があつたのだ。（どう見ても、絶対正解だ。先生のつけまちがいだろう。）そう思つて、先生の説明を聞くことにした。

さあ、例の地図の問題の説明が始まつた。どうやら、先生のつけまちがないらしい。自分のように答えた人はほとんどいなかつたようだ。（おかしい。自分の考えは間違つていらないはずだ。）先生の説明を聞いても、一郎は納得ができなかつた。

一郎は、昔から地図を読むことが大好きで、地図の問題には絶対の自信をもつていた。どうしても納得できなかつた一郎は、放課後、先生に相談に行つた。

「先生は、  
「先生も調べるから、田川君も調べて、ごらん。  
とおつしやつた。

その日、家に帰つた一郎は、いつも読んでいた地図の図鑑を手に取つた。その問題のことはのつていなかつたが、その地図の図鑑を作るのに「松井豊」という近くの大学の先生が関係していることに目をつけた。（この人に電話をしたら、きっと教えてくれるだろう。）

一郎は、電話帳を手に取つた。（市内に住んでいるのではないだろうか。きつとそうだ。）市内の電話帳で「松井 豊」の名を探す。二人のつていた。（どつちの人だろう。もしかしたらどつちの人でもないかもしない。）とりあえず電話をして、「松井 豊先生のお宅でしょうか」と聞くことにした。「一けんめ、どうやら違うようだ。失礼しました」と言つて受話器を置いた。

二けん目、女性が出た。  
「松井 豊先生のお宅でしょうか。」

「はい、そうですが。」

しかし、あいにく先生は留守で夕方改めて電話をかけることにし、一郎は受話器を置いた。胸が高鳴るのがはつきり分かつた。

夕方、電話をした。今度は男の人が出た。

「松井 豊先生のお宅でしょうか。」

「はい、そうですが。」

「ぼくは、東小学校六年の田川一郎といいます。とつぜんお電話してすみません。実は、社会の地図の問題で分からることがあるのですが、教えてくださいませんか。」

一郎はがんばつて説明した。

「先生のおつしやつた答えも、君の考えも正しいと思うよ。・・・」

松井先生は、解説を交えながら詳しく教えてくださった。

「ところで、どうして私に電話したの。」

一郎はよく読んでいた図鑑の話や、電話帳から探して電話したことなどを話した。

受話器を置いた一郎は、さっきより胸の高鳴りが大きくなっていることがわかった。

次の日、先生にそのことを話すと、「よく調べたね。先生も調べたけれどあれ以上のことはわからなかつたよ。」と、うれしそうな顔でおっしゃつた。

# 活用に生かすための実践報告

## 「社会科テスト」

### 1 主題の設定

- ・真理を求める態度は、新しく進歩したものを取り入れ、工夫して生活をよりよくしていこうとする時の基礎となるところである。いだいている疑問をそのままにしたり、少しのつまずきで追究をやめてしまうようでは、創造的に暮らしていくことはできない。
- ・本資料は一人の6年生が、社会科のテストの答えに疑問をもつ話である。本当のことを知りたいため、どきどきする気持ちを押さえて何度も電話をかけて、疑問を解決する。
- ・高学年の児童は、総合的な学習などで問題解決的な学習をする中で、いくつかの壁にぶち当たる経験をする。追究の思いが弱かったり、手だてが分からなかったりして、その壁を破れないことも多い。
- ・そこで、この資料を通し、一つの疑問に対し、本当のことが知りたいという一心から解決をしていこうとする態度に共感し、真理を探究しようとする態度へつなげていきたい。

### 2 指導過程の工夫

- ・導入で日頃感じている疑問について出し、資料への関心をつなげたい。
- ・一郎がどきどきしながら電話をし、本当のことがわかって達成感を味わうという流れにし、一郎の気持ちに共感させたい。
- ・電話をかける場面では、役割演技や

動作化などを取り入れると効果的である。

- ・展開の後段(自己の振り返り)では、総合的な学習の時間等とからませることができるように、事前に振り返りカード・自己評価カードなどを用意しておきたい。

### 3 発問の工夫

- ・発問「一軒目、間違い電話だったときの一郎はどんな気持ちでしょうか。」で、一郎にとって電話をすることは容易ではないことに気付かせたい。そして、「がんばって説明している一郎はどんな気持ちでしょうか。」によって、一郎の本当のことを知りたいという気持ちをつかませたい。

### 4 児童の反応(授業後の感想)

- ・本当のことを知りたいという気持ちの強さをつかむことができ、一郎に共感することができた。
- ・振り返りでは、総合的な学習の時間での経験が出てきた。「勇気を出して質問したら、ちゃんと答えてくれて、疑問が解けた。」「何軒も電話して、やめようとも思ったけど、続けて電話してやっと答えが出たときは、うれしかった。」などである。

### 5 実践者からの一言

- ・自己の振り返りで、総合的な学習の時間などの問題解決的な学習の経験を生かしやすい資料であった。

(津田小学校 石川和明)